

るるぶ²

食べる、寝る、遊ぶ、学ぶ

大殿小学校 校長室だより
令和元年度 第2号 (9月4日)
校長 磯村 勇

舞 台

9月2日、始業式の日の午後、教職員が総出でテント数張りの設置、サッカーゴールの移動などの作業を行いました。もちろん運動会の<練習>のためです。

テントは児童用も2張り設置しました。写真は、放送機材が直射日光に当たったり突然の雨に濡れたりして故障するのを避けるための本部席テントです。

一方、サッカーゴールは入場門や退場門として活用します。本番と同じ位置に動かし固定しました。

これで、ひとまず運動会の練習用の舞台はでき上がりました。これから練習を重ね、少しずつ機材や道具が増えていき、運動会前日に保護者の皆様や地域の方々のお力を借りて、一気に本番の舞台を作り上げていくこととなります。そのことを想像すると、なにがしかの緊張感を感じます。次の日に登校した子どもたちが、テントが張られサッカーゴールが移動している運動場を見て、どんな気持ちになるだろうかと想像するのもこうした作業を終えた時の楽しみであったりします。



始業式では、子どもたちに「2学期は運動会、音楽会、大殿フェスタなど、大きな行事がたくさんあるけれど、どれも一人では決してできないものばかり。だから、みんなで頑張っていこう。」という趣旨の話をしました。一人ではできない大きな行事に本気で関わる体験は、人間にとって何事にも代えがたい体験となります。

目立つ必要もない、ヒーローになる必要もない。ただ、自分の仕事に必死になり、自分以外の人のことも本気で考えてほしいと思います。自分は走らなくても、「〇〇君頑張れ！」と思う心が欲しい。できるかどうか分からなくても、何度も何度も練習を続ける心が欲しい。疲れてリタイアしたときも、目だけは練習を続ける友達から離さない心が欲しい。そう思います。

そういう心が、自分を自分で勇気づけたり、仲間を信じて努力したりする人間を育てます。運動会はそのための行事でもあります。

9月3日は、実質的な運動会の練習初日でした。低学年、中学年、高学年それぞれが、順番に体育館に集まって、主に表現や組体操の練習を行いました。3・4年生は、初めて教わる動きに戸惑いながらも、ステージ上で指導する先生を一生懸命に真似をして覚えようとしています。

途中、へとへとになって列を離れた児童がいました。練習を続けるかどうかを、自分の心と体に問いかけて判断する体験も運動会ならではの光景です。私は、座り込んで下を向いたその子に声を掛けました。



「体を休めながら、目だけは練習を見ていなさい。見ているだけで覚えられることもあるよ」

その子は、1回深く息をして、それから顔を上げて、練習を見ようと目を向けました。大殿小で言う「まごころをもって、学ぶ子」とは、こんな小さな行動からつながる姿です。